



マップ毎のテーブルを準備中のスタッフ

11月1日榛東村社協事務局長小野関芳美氏の講演会。市社協とは令和元年台風19号水害時のボランティアセンター設立時に支援頂いた時から交流を深めている。住民の本音に迫る榛東村の支え合い活動は最先端を行くと全国的にも注目されている。それは地域支え合いの絆の有無が地域住民の安心安全を左右する究極例として「災害時」をとり上げ、「その時の弱者支援マップ作り」に地域を巻き込んで追求してきた結果という。

支え合いマップ作りから生まれる地域活動

その原点は平成16年の中越地震の時、半壊壊の家から逃れ農ビハウスの中で被災者達が怯えながら身を寄せて暖を取っている光景を、ボランティアで訪れた小野寺氏が見かけたことだという。「他人事ではない、平常時に出来る事は何か」と仲間達との模索が始まって、共感者・協力者を増やしながら活動を進めて今に繋がるという。

何回か小野寺氏のお話を聞いたが、今回の講演会が最も詳しく集大成されて分かり易く、マップ作りのポイントを学ぶにはとても良い内容だった。

令和4年の榛東村訪問研修で「年一回の合同マップ作り」現場見学にも参加したが、準備段階の内容、使用ツール、グループ規模、生の言葉のやり取り、出来掛け生マップ観察等貴重な体験であった。この時はNHKテレビカメラも入っていた。

本講演の主眼は、重要な「支え合いマップ作り」だけにあるのではなく、その目的を成そうとする活動が、更にもっと大きな地域全



町内女性部員も演芸に出演してがんばる

今年の敬老の日は9月18日。9月に入ると各所で恒例の敬老会が開かれた。コロナ禍で集合会食会ができずに4年、この間祝賀対象年齢を1歳ずつ繰り上げて80才以上とするのが進展し、今年はその初年となる。(過去平成10年に75才以上に)それだけ元気高齢者が増加している訳で、合理性を保つ為には必要で、一部制度も変わった。節目の祝い金は喜寿がなくなり米寿

敬老会 久しぶりの会食会 演芸会もできた

と95才となり、銀行振込となつた。

5年間同じ対象層で来て、今年の人数はその30%減、全市158町と78施設での開催の、1729名となっている。雑駁に言えば5年間で凡そ7,300人が亡くなられたとも言える。正に多死時代と言われる所以だろう。当山辺地区22町では合同開催

大雨で床上浸水、突風で屋根が壊された：気候変動でそんなリスクが大きくなっている。当市でも令和元年の台風19号による集中豪雨で、市内各所にて洪水被害が発生したことが記憶に新しい。

7月22日、市社協の災害講座は、「自宅が被災した時、どうすれば？、再建築はあるのか」に主眼を置いて、「現支援策をフル活用」して再建の道を見出せるようにする講座。専門家の弁護士によるノーハウ全公開の

もしも我が家が被災したらどうしよう？

も残り15会場での2,046人の対象者。これも全市同様5年前比29%減となっている。

町内事情に合わせ地域単位での敬老会はそれぞれに異なっている点が多く、またコロナ感染リスクも0ではないだけに、集合型会食会は7会場、他の8会場は記念品配布等であった。

集合会食会を行った所は、リスク対策を施し、久しぶりの知人や来賓との顔合わせを喜びあい、和やかに楽しく過ごすことができた。

極めて有用な研修会であった。被災者支援制度は国、県、市等結構あるが、複雑な事と当事者にならないと調べない事、申請主義である事等で、知られておらずフル活用されていない。それ故、被災・絶望から安易な自己破産や家庭崩壊の悲劇が生まれ易いという。

講師の永野海先生は弁護士・防災士であり、日弁連災害復興支援委員会副委員長で在住の静岡県でその実活動を推進しておられる。

ラジオ体操で地域交流が生まれる

朝6時をまわり、ラジオ体操の時間が近づくと、堀込白山神社1丁目自治会館の広場に、三々五々ご近所の高齢者や子供達が集まってくる。皆自主的に集まった人達というが、元気な挨拶を交わしおしゃべり交流する中にラジオ体操が始まる。

先立っている方は東村賢博さんと内田伸二さん。昨年の夏から始めて年中無休で継続中。

きっかけは自分の健康維持。夏休みに育成会主催の体操に参加中、コロナ禍で中止に、ならばと2人で始めたという。

やっていることが近所の方々が「私も」と加わって来、口コミで少しずつ伝わり、現在の様に多勢参加されるようになった。9月中旬のこの日も子供3人含め17人の参加。

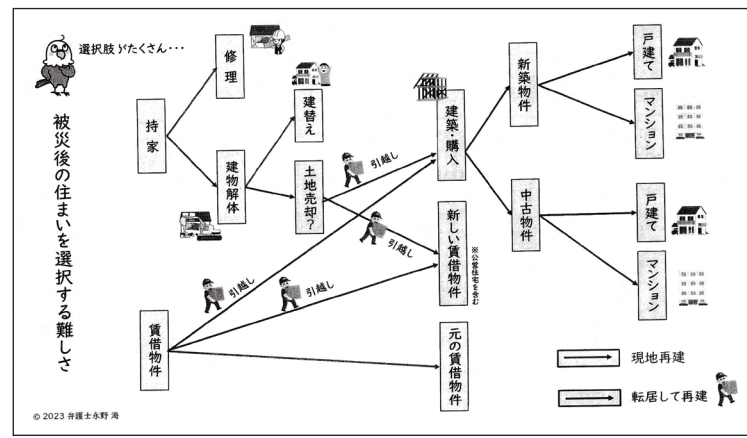


メニューはラジオ体操の後に、テレビのみんなの体操を加えているので、自分に合った時間と運動量が適度にとれるのがいいようだ。

80代女性4名に伺った。

- ・自分の健康の為に朝起きるのが励みになっている。
- ・体が伸びて、届かなかった所に手が届くようになった。
- ・達成感が良い。皆とおしゃべりも楽しいし地域の人の交流ができるのが良い。
- ・楽しい。元気を貰える。休んだ人が心配になる。

地域の住民の心の通い合い・共感が思いやり・支え合いの基本なのですね。



膨大な相談支援の実例集を層別分析して、ケース毎に最適な支援策を得ていく手法の標準化を確立、専門家でなくとも支援策が解り易い指導手法だ。

即ち、時系列横軸に諸支援策をプロット、ケース毎に該当支援策を選択・評価し加積算していく方法。事例研修で学べる位標準化されている。

「先生、ノーハウをここまでオープンにして大丈夫ですか？」と心底思った研修講座でした。